



2024年10月11日

各 位

会 社 名 株式会社ジーデップ・アドバンス  
代表者名 代表取締役社長 飯野 匡道  
(コード：5885 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役経営管理部長 大橋 達夫  
(TEL. 022-713-4050)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年10月11日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社の現状を分析し、今後の取組み方針について決議いたしましたので、お知らせいたします。

内容につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について



株式会社ジーデップ・アドバンス



## 現状・課題

現在のPBR・ROEの水準に鑑みると、収益性と成長性の両面において一定の評価はされている認識も、引き続き事業成長とIR活動に注力することで、資本コストを一層意識した経営を推進していく

### 現状分析（2024年5月期）

**PBR**  
(2024年5月末時点)  
**5.9**倍

=

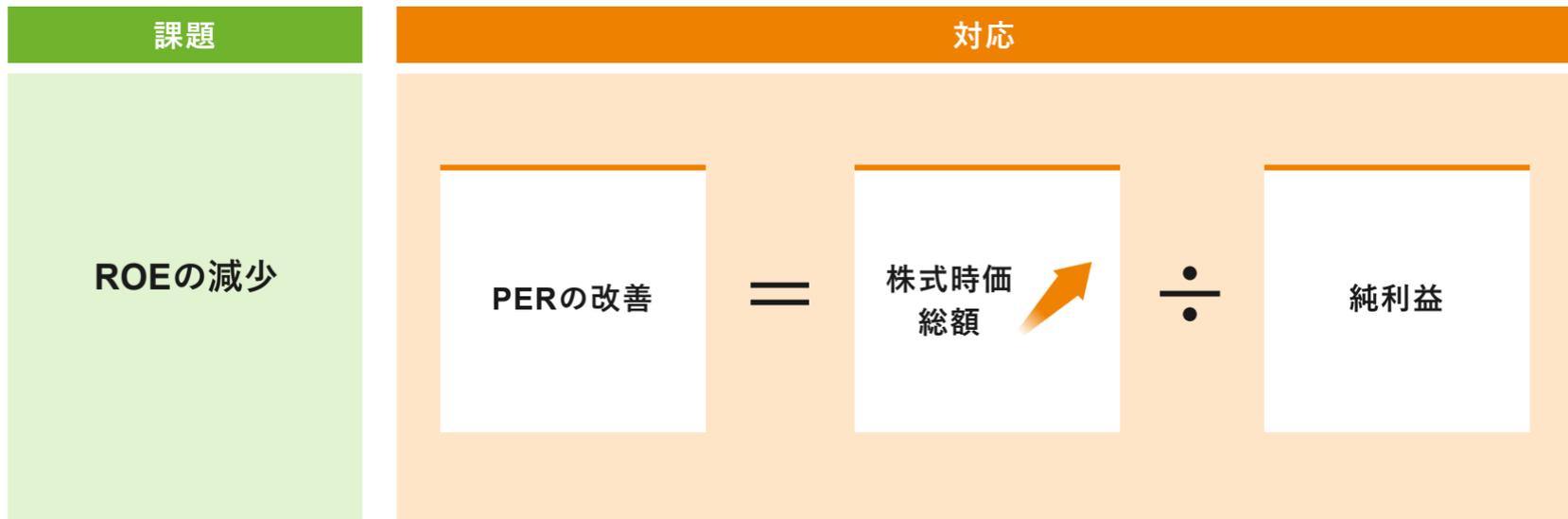
**ROE\***  
**18.1**%

×

**PER**  
**32.6**倍

## 対応方針

第10期及び第11期は、ポスト中計（第13期以降）の成長のため、積極的な投資を実施していく方針。そのため、第10期や第11期においては一時的にROEは下がる見込みではあるものの、PERをさらに改善することによりPBRをより改善していく。具体的には株式時価総額をあげていく。



## 対応 株式時価総額の上昇

PERの更なる改善のために、株式時価総額を上昇させる必要がある。

そのため3つの施策に取り組んでいく

1. 株式の流動性を高める 2. IR活動の強化 3. 成長戦略の実行

1

株式の流動性



株式分割を実施

2

IR活動の強化



アンシステマティック  
リスクに関する情報提供

3

成長戦略の実行



成長戦略を実行することにより、中期経営計画を達成するとともに、「公表した数字に対しては着実に実行する会社」という評価を得ていく

# 1 株式の流動性を高める

- 2024年8月末時点で1単元当たりの投資額は87万円。個人投資家にとってハードルの高い投資額となっている。
- そのため、1株を4分割する株式分割を実施することにより、1単元当たりの投資額を下げることににより、個人投資家をはじめとする様々な投資家に当社株式を購入していただき、株式の流動性を高めることを目標とする。
- 株式の流動性が高まることにより機関投資家がより当社へ投資しやすい環境となるため、時価総額上昇の効果が見込まれる

分割前

1単元当たり

87万円

分割後（想定）

1単元当たり

約 22万円

## 2 IR活動の強化

- 当社はIPOから1年しか経過していないため、投資家等にとって情報の少ない会社となっている。そのため、投資するための情報不足になっている可能性がある。そこでIR活動を強化し、投資のための情報を提供することによって投資の機会を増やすことにより、将来的な時価総額上昇につなげていく。
- また、情報不足によりアンシステムティックリスクが適切に評価されておらず、要求コストが本来あるべき水準よりも高い水準になっている可能性がある。そのため、IR活動を通じて情報提供を行い、当社をより理解していただくことによって、アンシステムティックリスクを適切に評価していただき、資本コストを低減していく。

### IR活動強化の具体的施策

#### IR専任者の設置

- IR専任者を1名設置。  
投資家Mtgをより活発に行っていく

#### 投資家Mtgの内容の フィードバック体制の構築

- 投資家Mtgの内容を取締役に報告し、投資家の意見を役員全員で共有
- 投資家の意見を考慮した会社運営を目指していく

### 3 成長戦略の実行

- 成長戦略を実行することにより、事業規模を拡大していくとともに、中期経営計画を達成する
- そのことにより業績拡大はもとより、公表した数字についてはコミットする会社、という評価をしていただくことにより、当社への投資をより行っていただく

1

上位レイヤーソリューションへの移行と環境整備

2

大規模AI時代に合わせたエコシステムの増強

3

AIリソースの総合ベンダーとしてハイブリッド化を促進